



地域の方から大詫間への想いや
小さい頃の思い出などをお寄せい
ただく『私と大詫間』シリーズです。

私は高校卒業後、4年余り大詫間を離れていたことがあります。慣れない都会暮らし、厳しく辛い仕事につまずくことも度々で、そんな時いつも遠いふる里大詫間のことを想い心を癒す毎日でした。

私たちが小学生の頃は、「農繁休暇」と云って、田植えや稲刈りの時期にはそれぞれ一週間程お休みになりました。小学生といっても立派な戦力、刈り取った稲を小寄(こよ)せする作業は、子どもの手伝いが大きな力になりました。小寄せされた稲は、大人が手際良く積んでいき、稲小積の完成です。整然と立ち並ぶ稲小積の美しさは、他の地方では見られない「佐賀の風物詩」で、ふる里のなつかしい風景の一つでした。

そして大詫間の一番の思い出は、松枝神社の秋祭りです。待ちに待ったお祭りの朝、笛や鉦、太鼓の音に目を覚ませば、座敷にはもう「鮎の昆布巻」などご馳走が並んでいました。

お宮の参道や通りにはたくさんの露店が並び、小遣いを握りしめ、胸躍らせてお店を一軒一軒見て廻ったあの日のことを思うと、ふる里大詫間へ飛んで帰りたい気持ちが募りました。「ふるさとは遠きに有るて思うもの」の言葉を実感した4年余りの都会暮らしでした。

今、穏やかな大詫間に生まれ育ったことをとても幸せに思っています。



8402211

63



第2回目は
大2区 安岡 美佐女 さん

0000

2月成人学級 春待つ花の 寄せ植え教室

寒い冬は家の中で過ごす時間が多くなりますね。特に今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために『おうち時間』が多くなりました。そんな時間の中で、人を癒す力があるとされている植物にふれてみませんか。

かわいい花やさわやかな緑を身近において、お世話をして大きくなりきれいな花を咲かせる姿から元気をもらいましょう。

参加ご希望の方は2月10日(水)までに

大詫間公民館 Tel45-4480 へお電話でお申込みください。

期 日	2月18日(木)
時 間	午前10時～
講 師	高橋 みゆき さん (グリーンアドバイザー)
募集人数	15名
参加費	1,000円(材料代) 当日ご持参ください。

ちょっとしたはなし



今年の節分は2月2日です。「鬼は外、福は内」の節分は2月3日というイメージが強いと思いませんか。節分が2月3日以外になったのは1984(昭和59)年2月4日以来、37年ぶりとのこと。そしてなんと2月2日になるのは1897(明治30)年2月2日以来124年ぶりだそうです!「節分は2月3日だ」と思っていたという方も多いのではないのでしょうか。

節分は『季節を分ける』ことを意味しています。太陽を動きを元に考えられており、春分などと同じできちんと日付が固定されていないので今年は2月2日にあたるそうです。

～市税の納付は口座振替で～

- 口座振替ができる税 市県民税(普通徴収)、固定資産税、軽自動車税
- 受付窓口 預貯金口座のある市内の金融機関、市役所本庁納税課(3階)
- 必要なもの 預貯金通帳、通帳の届出印、納税通知書

【問い合わせ】佐賀市納税課 収納係 TEL40-7075 FAX25-5408



館長コラム

二月は逃げる

日本で最低気温を記録した月日のランキングトップ10には、1月が4回、2月が6回入っているそうです。2月3日は立春、暦の上では春です。とは言うものの春とは名ばかり、まだまだ寒い日は続きます。立春から春分までの間に初めて吹く南寄りの風、春一番は春の到来を告げるのどかで優しい風のような響きがありますが、実際は大きな事故をもたらす警戒すべき風です。その春一番が吹くと、その後は暖かい日と寒の戻りを繰り返しながら、春は少しずつ確実に近づいてきます。

今年度も残り2か月となりました。1月は行く、2月は逃げる、3月は去るといいますが、2月はひと月が28日と少なく、実際早く過ぎるように感じます。そういえば、我が家では2月のことを「チョロ二月」といつていたのを思い出しました。

年度末までの事業や行事にコロナが立ちふさがっています。2月に逃げられないよう気を引き締め、一日一日の時間を大切にしていきたいと思えます。